

年表は歴史の羅針盤

歴史年表研究家

日置英剛

年表は、歴史の骨組み・エッセンスであり、歴史上のいろいろな事件や庶民の動き、要職者の動向、官職の補任など年次順に種々工夫をして作りあげたものです。歴史研究者・作家たちにとって机上近くに置く必需品で、この羅針盤の上ののって研究や創作活動がなされるといって過言ではないでしょう。

それほど大切・重要なものでありながらこれを専門に研究・作成する学者は現在のところほとんどありません。現在ある年表は多く人が集まって、編纂されたものです。それはそれなりによい点があるのも事実ですが、かつての一人が工夫を重ねて作った個性ある年表が見当たらないのは残念でもあります。おそらく現在すでに判明している歴史の事実の骨組みを、エッセンスをまとめるということは、新しさを追求する学者にとっては、研究としての実績と認められない難いからということのようです。

太安万侶が、稗田阿礼の記誦している「帝紀」「旧辞」をもとに、苦心に苦心を重ねて「古事記」を編纂したと序文に記していますが、これが年表の

基本です。また年表というのは作成者によって内容に下限が必ずあるということが宿命です。文字で表記できない時代に、どれほどの人が「帝紀」「旧辞」に関わったのでしょうか。その積み重ねのあとの一人が稗田阿礼なのです。

このように文字による記述が定着するに従って、多くの年表、年表の基礎となる作品が作られました。多くは忘れられ、僅かに平安時代では「歴史記（公卿記）」とも、作者不詳、弘仁二年成立。「奈良年代記（作者不詳、嘉保元年以降成立）」、鎌倉時代では「皇代年記（僧慈鎮、承久二年以降成立）」、「鳩嶺年記（作者不詳、承久三年成立）」、「皇代紀抄（作者不詳、貞永元年成立）」、「帝王編年記（僧永祐撰、正安三年成立）」、「仁寿鏡（作者不詳、延慶元年成立）」があるばかり。ただこれらの諸本は、幸いに群書類従、続群書類従、国史大系（吉川弘文館）に刊本として所載され、比較的容易に見ることが出来ます。

この間、「続日本紀」「日本後記」「続日本後記」「文徳天皇実録」、「三代実録」「大鏡」、「水鏡」、「増鏡」、「吾妻鏡」などのしつかりした歴史書が作られたことを言えば、その基礎となる年表、記録類が大量に失われたことは明らかです。江戸時代に塙保己一が忘れられそうなる諸書を日本中を巡り集め「群書類従」六百六十六巻を刊行したのもそれを恐れたからなのです。

江戸時代から昭和に至るまで、多くの学者は真剣に取組み、苦心を重ねた興味ある年表がいくつも作られています。それは今日では市場ではとても入手できません。ときには図書館でも見ることができない場合もあります。とても残念です。

今回、クレス出版が、江戸期以降の歴史年表の基本書をまとめて出版されることの素晴らしい企画を立てられ、これにより年表に対する関心が高まり、歴史研究者・歴史愛好家がいよいよ増え、素晴らしい文学作品が多く生まれることを願ってやみません。

日本年表選集 全八巻構成

第一巻

武家必覧 泰平年表 (忍屋隠士輯、天保十二年初板)
銅板 和漢年契 (蘆屋著、慶応二年、三都書林)
増訂 日本金石年表 (奥田抱生著、明治四十二年、豊田葉三郎)

第二巻

日本年表 (落合直澄著、明治二十一年)
新撰 東西年表 (井上頼因・大槻如電合撰、明治三十一年、吉川半七)
万国大年表 (棚橋一郎・小川銀次郎合編、明治三十年、三省堂書店)

第三巻

古今 人物年表 (早川蒼淵著、明治三十三年、丸善書店)
国史研究年表 (黒板勝美著、大正七年、文会堂書店)
歴史日鑑 (田原新作編、昭和十二年、歴史日鑑刊行所)

第四巻

日本史籍年表 (明治三十六、七年初版、小泉安次郎編)

第五巻

帝諡考、元号考 (森林太郎著、大正十五年、鷗外全集刊行会)

第六巻

日本文化史年表 (清原貞雄著、昭和五年、中文館書店)

第七巻

史籍年表 (伴信友編、弘化二年、中屋徳兵衛)
新撰年表 (清宮秀堅著、嘉永甲寅)
新撰洋学年表 (大槻如電著、昭和二年、大槻茂雄)

第八巻

日本百科年表 (大久保利謙・下村富士男編、昭和三十一年、朝倉書店)

日本百科年表 内容

I 総合年表

II 政治・社会・経済年表

- 1 政治 (前期政治、近代政治、議会・選挙・政党、内閣制度、府藩県廃合、市制)
2 外交 (前期対外関係、近世対極東諸国関係、近世日欧関係、近代外交、樺太・千島・小笠原・沖繩関係)
3 社会 (土一揆、百姓一揆統計表、近代社会運動)
4 経済 (農業、前期産業、近代産業、商業、貨幣、近代金融、主要会社創立)
5 交通・通信 (交通・鉄道・通信事業)

III 文化年表

- 1 新聞・雑誌・印刷
2 学問・教育 (文学、儒学、医学、洋学、近代科学、教育)
3 宗教 (仏教、主要寺院創建、神道、主要神社創建、キリスト教、新興宗教)
4 美術 (絵画、建築、彫刻、書道、庭園)
5 工芸 (刀剣、工芸、陶器)
6 芸能・趣味・運動 (映画、演劇、邦楽、流行歌、切手、茶道、華道、香道、武道、スポーツ)

附録 (著名人物没、主要災害、全国人口、近代生活、日本年号索引、干支早見表、太閤検地、議長、内閣総理大臣、主要都市人口表、在外日本外交官任命、各国外交官来任、第一次大戦以後の新国家、20世紀通貨発行高、米穀実収高、配給米価格、郵便料金、国鉄運賃、たばこ値段、諸料金指数、大相撲優勝、全国高校野球優勝、東京六大学野球優勝、全国都市対抗野球大会優勝、職業野球優勝、囲碁基本因坊戦優勝者表・将棋名人歴代表、国立公園指定、古今年行事一覧表)

第二巻 新撰 東西年表

Table of contents for Volume 2, listing years from 1190 to 1300 and corresponding historical events.

第三巻 国史研究年表

Table of contents for Volume 3, listing years from 1300 to 1400 and corresponding historical events.

第六巻 日本文化史年表

Table of contents for Volume 6, listing years from 1400 to 1500 and corresponding historical events.

(4) 洋 学 年 表

世紀	年代	○時代の概観 ○洋学関係事象 ○洋学関係文献	世紀	年代	○時代の概観 ○洋学関係事象 ○洋学関係文献
16 世	1543 〔戦国期〕	○この年鉄砲の伝来とともに築城術も変化した。採鋳技術や造船術をも導入する一方キリシタンの伝道とともに医学・天文学さらには印刷術も伝わった。これらを南蛮学・南蛮文化と総称 ○ポルトガル船、種子島に漂着島主時堯に鉄砲を伝える	17 世	1609	○平戸にオランダ商館を建設。幕府渡海免許状を与える
	1544	○ポルトガル船、再び種子島に來り島人鉄砲の鑄造法と弾薬製法を伝習		1613	○仙台の大名伊達政宗、家臣支倉常長を呂宋に遣す ○田付兵庫助景澄、幕府鉄砲方となり子孫世襲
	1550	○ポルトガル船、肥前平戸に來り島主松浦隆信に鳥銃を伝え、また通商を許される。京・堺等の商人群集		1614	○井上外記正継、幕府鉄砲方となり子孫世襲
	1555	○銃工テウシクチ、ポルトガル船に乗り種子島に來り京都に送られる。將軍義輝、近江坂田郡国友の地を与え鉄砲を鑄造させる（国友鍛冶はこの後裔）		1615	○オランダより献上の大砲12門で大阪城を攻める ○幕府の命により国友鍛冶、100目150目の大筒20余挺を造る ○伊勢大湊の商人角屋七郎次郎、朱印船貿易を営んでいたが、この年安南に日本町を建設
	1556	○豊後大友宗麟、ポルトガルの医師を招き病者貧者を収容、また巨砲を得て国崩と名づける		1616	○英人の通商を平戸のみとする
	1565	○信長入京し天主教系の永祿寺を建てようとしたが叡山の反対で止める		1620	○支倉常長ら帰国
	1568	○ポルトガル船1隻肥前深江に來り、地頭長崎甚左衛門、港町としての市街を建設（長崎港のおこり）		1621	○イギリス、平戸商館を放棄。ヨーロッパ人の日本への貿易はオランダのみとなる
	1573	○織田信長、南蛮寺を京都四条坊門に建てる。牧師ら医学・天文・築城等の諸技術を伝える（西洋学術の日本に入ったはじめ）		1624	○スペイン船來り通商をこうたが、幕府は許さない
	1576	○信長、安土城を築く。技術はポルトガル人の手による		1634	○長崎に出島を築き南蛮商人の居住地と定め、内外人の雑居を禁止
	1580	○このころ摂津平野郷の末吉勘兵衛、廻船を利用し商業をいとなみその子孫が南洋貿易に従事（末吉船）		1635	○幕府、大砲100門を鑄造
1581	○スペイン船はじめて長崎に來る	1636	○日本船の海外渡航及び異国在留邦人の帰国を禁止		
1591	○秀吉、ポルトガル印度総督の使節を引見	1639 〔江戸前期〕	○蘭華両国以外の通商渡航を禁止した鎖国体制の完成により、スペイン・ポルトガル系の南蛮技術・文化は移入の途を絶たれ、このちオランダ系の医学・天文学・数学・地理学が発達した ○蘭華両国を除く諸外国船の貿易渡航及び邦人の海外渡航を一切禁止 ○「伊曾保物語」（天草本）刊行		
1592	○秀吉、使者を呂宋に送り入貢を促す ○長崎に奉行・代官・町年寄らをおく ○異国渡海の朱印船を9艘と定め発着地を長崎とする	1641	○平戸オランダ商館を長崎出島に移す ○福岡黒田藩・佐賀鍋島藩に、交代で長崎警備に当らせる ○ヘイトルカラス・フランコフルナトラス（ともにオランダ人）「紅毛火術録」		
1594	○天草天主教会で「ポルトガル・ラテン・日本三國対訳辞書」を活字刊行。この前後に「伊曾保物語」「日本文典」「日本節用集」等を活字で刊行	1642	○今後オランダ船の長崎入港毎に世界の政治情勢・風俗人情等を報告させ訳して江戸に送る。これを「阿蘭陀風説書」という		
1600	○イギリス人ウイリアム・アダムス・オランダ人ヤン・ヨーステンら、リーフデ号に乗り和泉堺に來り、通商を乞い家康許す	1644	○幕府、青銅製大砲6門を造る。伊予松山城主松平隠岐守定行、長崎探題職となる。子孫世襲		

日本年表選集 全八巻

日置 英剛 編・解説

第一巻	泰平年表、和漢年契、日本金石年表	定価 9,500円(税別)	ISBN4-87733-265-0
第二巻	日本年表、新撰東西年表、万国大年表	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-266-9
第三巻	古今人物年表、国史研究年表、歴史日鑑	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-267-7
第四巻	日本史籍年表	定価15,000円(税別)	ISBN4-87733-268-5
第五巻	帝諡考、元号考	定価12,500円(税別)	ISBN4-87733-269-3
第六巻	日本文化史年表	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-270-7
第七巻	史籍年表、新撰年表、新撰洋学年表	定価13,500円(税別)	ISBN4-87733-271-5
第八巻	日本百科年表	定価11,500円(税別)	ISBN4-87733-272-3

揃定価99,750円(本体95,000円+税5%) ISBN4-87733-264-2(セット)

A5判、B5判(第七、八巻) / 上製函入 / クロス装 平成17年5月25日刊行

事物起源選集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

① 雅俗便覧 日本事物起原 事物原始考	金子 晋 編 松本 茂平 著	定価 8,200円(税別)	ISBN4-87733-231-6
② 増訂 明治事物起原	石井 研堂 著	定価19,000円(税別)	ISBN4-87733-232-4
③ 社会事物 起原と珍聞 座談の泉 事はじめ・物はじめ	植原 路郎 著 植原 路郎 著	定価 9,500円(税別)	ISBN4-87733-233-2
④ 日本文化史 事物起源辞典	雨宮信一郎 著	定価 8,000円(税別)	ISBN4-87733-234-0
⑤ 農業事物起原集成	大野 史朗 著	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-235-9
⑥ 真説 事物起原大辞典	清教社編集部 編	定価14,000円(税別)	ISBN4-87733-236-7
⑦ 日本事物起原誌	植原 路郎 著	定価 5,600円(税別)	ISBN4-87733-237-5
⑧ 日本文化 事物起源考	速水 建夫 著	定価11,000円(税別)	ISBN4-87733-238-3

揃定価88,300円(税別) ISBN4-87733-230-8(セット)

事物起源選集 第二回全5巻

紀田順一郎 監修・解説

⑨ ものしり事典 言語、文化篇	日置 昌一 著	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-259-6
⑩ ものしり事典 風俗、女性篇	日置 昌一 著	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-260-X
⑪ ものしり事典 芸能娯楽篇	日置 昌一 著	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-261-8
⑫ ものしり事典 政治、宗教篇	日置 昌一 著	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-262-6
⑬ ものしり事典 飲食、医薬篇	日置 昌一 著	定価13,000円(税別)	ISBN4-87733-263-4

揃定価65,000円(税別) ISBN4-87733-258-8(セット)



株式会社 クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>